

ンビナートと自由競争段階の工場とにおける労働組織の側面での労働生産力における差異はそれほど重要なものではなくなってしまうのではなからうか。

第六、著者は時間的強制進行性確立型の労働組織の成立している自動車工業や家庭電器工業のような機械的工業の産業領域における大量生産方式を「少種多量生産型」と規定しているが、これは「多種多量生産型」ではなからうか。

共同研究会

昭和四九年度第一回研究会（五月三十一日）

▼テーマ 「社会福祉と自治体財政」

報告者 坂野光俊氏

報告要旨

- 1、国家財政と地方財政
- 2、福祉行財政のしくみ
- 3、高度成長過程における福祉需要の膨脹
- 4、自治体財政の慢性的窮乏と福祉財源保障の貧困
- 5、低福祉行財政機構の再生産とその矛盾
- 6、打開策をめぐっての政策上の対立とその意義

昭和四九年度第二回研究会（六月七日）

▼テーマ バブーフと現代

報告者 小檜山政克氏

報告要旨

I、問題意識

社会主義とはなにかについて考え直してみること。
A、日本の将来の問題として

B、革命後半世紀の社会主義諸国の現実をふまえてそれを三つの分野から検討していく。

例えばレーニンの『マルクス主義の三つの源泉、三つの構成部分』参照

(一) 社会思想 その手がかりとしてのバブーフ

(二) 史的唯物論 例えば「相対的に自立的な経済的社会構成体としての社会主義社会」あるいは「発達した社会主義社会」というカテゴリーないし段階規定の問題

(三) 経済学 例えば「所有の問題」(例えば芦田教授の研究)、「計画経済」の問題。なお、この二つの問題はマルクス以前の社会主義思想の中に中心的なものとして存在した。民主主義思想と社会主義思想の相互関係は、今後の研究にまづが、両者の源流における相違点としての所有問題(Ⅱ私有財産批判)と自由の経済的保障の問題(資本論一卷二編末尾の文章参照)、あるいはエートピア社会主義思想の特徴としての所有、生産、労働、分配の社会化の問題はその際のポイントのひとつだろう。(例えは Jecher, p.4,6.)

Ⅱ、バブーフとマルクス

一、人類解放思想史の中でのマルクスの位置づけ

例えばバブーフ *es*—マルクス—現代というパスベクテ
イブでマルクスをみていく。「空想」と「科学」の関係。レ
ーニン「マルクスは社会主義への転化の不可避性を全くもつ
ばら現代社会の経済的運動法則から導き出している」。坂本
慶一「空想より科学へ」のシエーマに安住せずに、科学よ
り空想へ。の逆流を考えるべきではないだろうか。「マルク
ス主義とエートピア—初期マルクスとフランス社会主義—」東
京、一九七二(セーシ)

二、「共産党宣言」第三章の文章

Wir reden hier nicht von der Literatur, die in allen
großen modernen Revolution die Forderungen des Prole-
tariats ausspricht. (Schriften Babeufs usw. (Werke,
B. 4, S. 489)

なぜ語らないのかよくわからない。

三、①マルクス『聖家族』中の文章 (Werke, B. 2, S. 126)

②エンゲルス『ロンドンにおける諸国民の祝祭』での発言

(B. 2, S. 620)

③マルクス『道徳的批判と批判的道徳』(B. 4, S. 341)

④エンゲルス『反デューリング論』第一章、「……大きな

市民的運動がおこるたびに近代的プロレタリアートの、多少とも発展した先駆者である一階級の自主的な動きが出現した。たとえば……イギリス大革命におけるレバラーズ(平等派)、フランス大革命におけるバブーフがそれである。』

四、Далинの見解 その著 p. 9-10。

Волгин の見解「バブーフ主義の運動を研究しなくては、マルクス主義の発生に直接先だつ数十年間の社会主義思想の発展を完全には理解することはできない。」(С. В. Кан, Истории социалистических идей. Москва, 1967, стр. 76)。

III、バブーフの生涯

平岡昇『平等に憑かれた人々、——バブーフとその仲間たち——』、東京、一九七三(岩波新書)による(主として)。

一七六〇 ビカルディの貧農の家に生れ、母(女中)、一四歳から家計を助けた、自学自習、反抗的な青年、三七年の生涯の最後の四―五年以外はビカルディの農村で過した。

一七七七 一七歳の時土地台帳管理人となる。その中で農村の貧困から暗示されたユートピアが形成されていった(ビカルディに残っていた共同耕作の慣習↓農村

共同体、土地のない貧農の問題↓農地均分法)。

一七八九 『永代土地台帳』を出版、この年七・一四のバスチーユ攻撃の昂奮のさめやらぬ三日後にパリにかけた。この時パリに出かけたのはこの書物の出版のためであったが、民衆の革命精神の熱気にひたっているうちに自分の職業である土地管理の仕事に見切りをつけ、政治参加の決意を固めた。

一七九〇 ビカルディで革命のためジャーナリスト活動開始、『ビカルディ通信』(一七九〇―九二)編集長、同時に民衆運動の組織化に全力をつくす、消費税反対運動で投獄。

一七九二 ソム県の行政官にえらばれる。

一七九三 パリへ、一時パリ市の食糧管理局につとめた。

一七九四 パリでめざましい言論活動、『出版自由新聞』(一七九四、九、三一―〇、一)その続刊『人民の護民官または人権擁護者』(一七九四、一〇、一―一九六、

四、二四)、後者はグラックス・バブーフと署名され、『陰謀』時代にもっとも重要な宣伝手段となった。

一七九五 「平和蜂起」のプロバガンダのため逮捕される。

この獄中でパブーフ主義運動の中核形成。

一七九五、一〇月 釈放、当時サン・キュロットは五月蜂起

の失敗から平和蜂起の有効性を信じなくなり絶望的な状況になっていた。この中で従来の平和蜂起の方法について深刻な反省のうえ、武装蜂起への転換を

決意、一七九五年二月以後は地下活動に入ってジ

ヤーナリストとしてみざましく活動。

一七九六、三、一〇 パブーフら四名(のち三名加わって七

名)によって「公安秘密総裁府」(「秘密蜂起委員

会)を結成、革命工作員、地下新聞、パンフ、シ

ヤンソンなどを通じて活動。

一七九六、五、一〇 パブーフら逮捕さる。

一七九六、五、二六 ギロチンにのぼる。

IV、パブーフの思想と現代

第一点 革命遂行方式 略(なお柴田の著書 p. 288-289

のルフェーブルの評価には注意)。

第二点 新社会建設のプログラム、例えば「経済法令案要

綱」について

主として Meïer の書物による

◎「要綱」は大きくは二種の政策に分かれる。

一、富者に対して向けられたもの 相続権廃止、貨幣およ

び貨幣賃金の廃止、累進的現物税、私的貿易の禁止、国民共

同体成員への債務帳消し、必要な場合食糧・工業製品の没収、

こうして黄金を砂や石ほどのつまらぬものとする。

二、共産主義的な「大国民共同体」(究極的には全住民が

加入する)をつくろうとするもの

①「共同体」にはまず国有財産、革命の敵からの没収財

産、所有者が耕作していない土地、貧者が蜂起で占拠した住

宅が渡される。

② 共同体メンバーには自発的入会者、六〇才以上の老人、

身障者、無産者、国民教育所で教育された青年がなる。全メ

ンバーに同じ清潔でつましい生活が保障される。農業、手

工業労働は老人、身障者を除く全メンバーの義務、こうして

社会を共産主義的に改造していく。

③ 小所有者、小商人、日傭労働者等も経験によって共同

体のよさを知り(中庸の労働で清潔な生活がいつも保障され

るから)、それに入る。

④ 富者は税金や多額の費用を支出せねばならず、娯楽も

召使いもなく、権勢もうばわれ、国の中で異分子として扱われるので、或は海外へ亡命し、或は共同体に参加するようになる。

⑤ 蜂起委員会は、いつ完全な平等が成立するかについて正確な期限をいうことはできないが、共同体は遠からず全国民にひろがるだろう。それには、祖国防衛者が入り、なくなった人々の財産も組み入れられ、またこのような改革の必然的な結果としての世論が変化することが、大きく力あろう。一定段階になると、このメンバーだけが政治的権利をもち、メンバー以外は政治、軍事の仕事に参加できなくなる。

◎大国民共同体の原理（共産主義社会の原理）

- ① 財産共有 } これはパプーフ主義者たちの独創では
- ② 全員労働義務 } ない。
- ③ 全国的規模の・単一の・集中的に国家が調整する国民経済。パプーフ主義者の連邦主義反対の独特な理由Ⅱ国有財産をいくつかのグループに分けると土地の良否によりある者は余剰を他の者は不足をなめることになる。また共同体間の不可避的な交換は利己的な取引精神、貧欲を生む、共同体の領域が広げればそれだけ各部分の不足がなくてすむ、人々の

接触が多ければそれだけ全面的兄弟愛が生まれる。

数百万人の共同体を管理するのは小さな共同体を管理するよりたしかにむずかしい。そこには生産物の円滑な配分や輸送のための問題がおこるが、それは正確な計算によって克服できる。

④ 労働能力がある全市民（六十才以上は解放）は農業ないし手工業に従事する義務あり、労働日の長さ（モア六時間、カンパネラ四時間）は特にきめてないが、短かいものとし、労働を快適で楽しいものに変え、だれもそれを避けようとしなくなる。

⑤ 技術進歩に大きな意義を認める。「最高管理部は共同体に人間労働を短縮する機械や諸方法を導入する」。

⑥ 各共同体の市民はそれぞれの職業に応じてクラスに分けられる。各クラスの役員を皆で任命し、この役員は仕事が皆に平等になるように指導する。各共同体は大国民共同体の一部とみなされる。

⑦ 最高管理部は各州がそれぞれに適したそして全体として平等な生産をするように配慮する。生産、分配、教育を指導する国家の役割という伝統的な社会主義思想。

⑧ 教育重視 将来の職業と関連した技能と結びつけた学校工場。

○Dejerの批判

① 極端な平等主義

才能の均等化Ⅱ「社会の全成員に知識が平等に分配されればすべての人間がほとんど同じ能力、才能をもつようになる」という主張。(当時の経済、教育事情を考へること)

欲望、消費の平均化Ⅱ「各人に平均の物資を与え、だれにも平均以上を与えてはならない、綿密に平等を守ってすべての物資を分配する」という。

② 知識人に対する不信、知的労働の産物に高い評価を与えることに反対、それはインテリの虚構(とくに、バブーフにおいてつよぶ)。

◎問題提起

一、社会正義、社会的公正、社会的平等といった思想と社会主義との関係、分配と正義の関係。

R・C・タッカーの主張「マルクスの革命思想と現代」東京、昭四六年、p.25(分配上の正義について)。

「ゴータ綱領批判」の思想を参照。

バブーフとマルクスの相違、マルクスによる根本的批判、にもかかわらず現実の問題としての不平等と分配の問題。

二、それと関連しての生産力の発展の視点の問題(例えば水田洋氏の見解など)、さらにそれと関連しての社会進歩の基準の問題(マルクスの場合、レーニンの場合)。

三、所有と計画経済の問題、所有ということはどう考えるのか、所有で問題が解決するのか、経済的所有的内容の問題。

参考文献

一、平岡昇「平等に憑かれた人々——バブーフとその仲間たち——」東京、一九七三(岩波新書)。

二、柴田三千雄「バブーフの陰謀」東京、第二刷、一九七二(岩波書店)。

三、O. Э. Дейст. Политическая идеология утопических социалистов Франции в XVIII веке. Москва, 1972.

四、V. M. Далин. Трагик Бабеф накануне и во время Великой французской революции. (1785-1794). Москва, 1963.

五、Большая советская Энциклопедия, т. 4, 1950, В. П. Волгин 執筆, Бабеф の項。